



## ご挨拶

代表 熊澤 正博

今年度、京田辺市観光ボランティアガイド協会の代表に就任しました 熊澤正博 と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

当会は京田辺市を訪れる観光客の皆様にふるさとの自然風土や歴史文化などを会員自らの郷土愛とボランティア精神でもって案内と説明を行い、愛着を深めてもらうことを目的にしています。

昨年度JR西日本の「ちょこっと関西歴史たび」キャンペーンに、わが京田辺市が誇る酬恩庵一休寺を取り上げていただきました。広島・神戸・滋賀・名古屋など遠方からたくさんの方においでいただきましたが私たちガイドメンバーには大変刺激的でありガイド力の一層の向上の必要性を痛感いたしました。

平成30年度は次のことに重きをおいて活動します。今までのコースを見直し次の3つのテーマで新たなコースを展開します。

- ①ウォーキングを楽しんでいただく。
- ②京田辺の歴史をより深く知っていただく。
- ③京田辺の文化を体験していただく。

さらなるガイド力アップに努め観光客の皆様が大いに楽しんでいただき、さすが！とご満足いただけるよう研鑽に努めたいと思います。

また、今年度には新たにガイド（7期生）を募集します。私たちの主旨にご賛同していただける方は、是非ご応募ください！（京田辺市観光協会まで）

私たちと一緒に京田辺市を盛り上げましょう！

## 京田辺の祭りと神事

### 山本の百味と湯立ての神事

京田辺市山本地区では毎年体育の日の前夜、壽寶寺そばの佐牙神社山本御旅所にて「山本の百味と湯立ての神事」が行われます。（今年度は10月7日）またその前日の夜（今年度は10月6日）、佐牙神社では神輿に神を移し、湯立て、その他の神事を境内で行い、ひっそりと山本御旅所渡御の準備をします。渡御当日の朝、山本から神役のお出迎えを受けて、宝箱、太鼓、榊、御幣などとともに御旅所へ向かいます。神輿は神社の階段を降りた後、昨今の事ですから、軽トラックで昔からのコースを山本へと向かいます。

宮司さん、巫女さん、共に山本へ出向かれ、安着の儀が終わると、前もって横の棚に用意されていた百味を御旅所内に供えます。



供えられている百味は、土器（かわらけ）の小皿に盛り付けられた

色とりどりの野菜や果物、7種の穀類などで。野菜や果物は座の人々が、穀類はその年の神役が穂摘したものです。御旅所内はそれらでいっぱいです。

夜7時神事後、クライマックスの湯立て神楽が始まります。しめ縄を張り巡らした大釜に、塩、お神酒、お供米を入れると、ひときわ湯気が立ちのぼります。そんな中、剣と鈴を笹に持ち



替えた巫女さんが釜の湯を笹で激しく四方に振りまいて盛大に厄払いをします。山本地区の子どもたちは最前列に敷かれたむしろの上に陣取り、お湯をかけてもらうのを待っています。

御旅所で一夜を過ごされた男神、女神は翌朝、佐牙神社に戻られて祭りは終わり、次の年の御渡御を待たれます。

（北尾）

## JR西日本主催 1月～3月 ちよこっと関西歴史旅 「 酬恩庵 一休寺 」

廊下に寒風吹込む頃から、縁に陽春の日が差込む頃までの3ヶ月間「ちよこっと関西歴史たび 酬恩庵一休寺」のキャンペーンが行われた。

JR関西の強大な宣伝力もあり多くの人に参加された。ざっと数字をあげると、一休寺の拝観客が例年の3倍近くに、JR京田辺駅の乗客数が例年の2%近くのアップになったそうで、VG協会の投入延べ人数は195人となった。まさに空前絶後の数字でよくもこのハードスケジュールに耐えられたものだと感心する。それに加え組織の乱れもなく整然と行われたように思う。外部の評価も高いものがあった。これだけの長期の大イベントに耐えうるガイド団体は近在にはないとの外部評も出ている。今後は、ガイドの品質を磨けば更なるグレードアップに繋がるのではないだろうか

### 1. 事前勉強会

昨年5月から仕組み作りを行い、勉強会、現地での実習を12月まで行った。このように、周到な準備を重ね、それに全員が良く応えたことが今回の成功に繋がった。

### 2. 定点ガイド

実施日：11日、ガイド延べ動員人数：44人、客数：2～3千人程度（担当者目視推定量）



事前勉強会では定点ガイドを中心に行った。これにより一休寺を上手くPRでき、ガイドスキルも回を追うごとアップして

きた。今回のイベントを盛り上げる上で大きく貢献した。

### 3. ガイドウォーク 半日・一日コース

実施日：6日、ガイド延べ動員人数：59人、客数：331人

近隣寺社、国宝の観音様を紹介する上で大きな効果があり多くの方が参加された。一日コースは、距離はあるが「一休みして観音さん巡り」のゴールデンコースとなりそうである。

### 4. 玉露のおもてなし

実施日：45日、ガイド延べ動員人数：92人、客数：700人程度

最初は少々自信無げに玉露を淹れていたが、回が進むにつれ淹れ方も板に付き先生然としてくるのは不思議である。リピーターも現れるほどであった。VG協会としても良い経験させてもらった。（三枝）

## 読売新聞わいず倶楽部 3月1日 大人の社会見学 「京田辺散策ツアー」

「わいず倶楽部」とは読売新聞が主催する55歳以上の会員組織で約6万人超の会員が属している。実は私も会員で、今までに薬師寺の写経



や奈良国立博物館の見学などでお世話になった。セミナーやウォーキング、清掃活動、大阪マラソンの給水活動等を行っている。

観光協会を通じて話があり、コースはお任せで、半日コースとの依頼。早速コース設定に入るが、途中で一休寺を入れてほしいとの希望もあり入れることに変更した。更には、ちょうど「お茶の京都」のキャンペーン中でもあったので、「茶香服体験」も入れようと話がまとまった。ところが料金が高くなり、応募者がいるかどうかと心配したが、ふたを開けると募集人数30名に対し120名超もの申し込みがあり、ひと安心と同時に落選された方々には申し訳なく思った。

古刹一休寺の景観を楽しみ、茶香服を嗜む優雅なひとときを過ごし、玉露の旨味を堪能。今回の特別コースを、わいず倶楽部の皆様はとても喜んでくださったようだ。

**コース** JR京田辺駅集合—中央公民館（茶香服を体験）—花見山公園—一休寺（約1時間拝観）—一休とんちロード—新田辺東商店街で「玉露喫茶」—JR京田辺駅

ちなみに私はその後、その時お会いした読売新聞の記者さんから別途取材を受け、わいず倶楽部「元氣印」で紙面に登場させて頂いた。

（園上）





第15回・第16回 市民参画型講演会

日本の生活、文化に深く浸透してきた歳時(年中行事)について、太陽歴、太陰暦を絡ませて、わかりやすく解説します! 例えば重陽の節供とは五節供の一つで菊の節供ともいいます。その起源は古代中国にあり、九月九日の重陽の日に人々は、呉茱萸を袋に入れて小高い山に登り、長命をもたらすと言われる菊の花を愛でて、邪気を祓い、「菊慈童」という菊の葉の露を飲みました。

第15回 京田辺市民参画型講演会  
**「日本の歳時記②..春、夏編」**  
 講師 京都産業大学特別上席客員研究員  
 「平安京を語る会」会長  
 中江 好喜 先生  
 日時 平成30年8月18日(土)  
 午前10時~12時  
 (受付 午前9時30分~)  
 場所 京田辺市 中央公民館  
 参加費 200円(資料代)  
 申込み 京田辺市駅ナカ案内所  
 TEL 0774-68-2810  
 8月17日 17:00迄に  
 申し込んで下さい  
 「日本の生活、文化に深く浸透してきた  
 歳時(年中行事)について 太陽歴、  
 太陰暦をからませて解り易く解説します」  
 主催 京田辺市観光ボランティアガイド協会  
 協賛 一般社団法人 京田辺市観光協会

第15回 講演会

「日本の歳時記②..  
春、夏編」

日程:平成30年8月18日(土)  
 締め切り:8月17日(金)  
 午後5時まで。

第16回 京田辺市民参画型講演会  
**「日本の歳時記③..秋、冬編」**  
 講師 京都産業大学特別上席客員研究員  
 「平安京を語る会」会長  
 中江 好喜 先生  
 日時 平成30年12月15日(土)  
 午前10時~12時  
 (受付 午前9時30分~)  
 場所 京田辺市 中央公民館  
 参加費 200円(資料代)  
 申込み 京田辺市駅ナカ案内所  
 TEL 0774-68-2810  
 12月14日 17:00迄に  
 申し込んで下さい  
 「日本の生活、文化に深く浸透してきた  
 歳時(年中行事)について 太陽歴、  
 太陰暦をからませて解り易く解説します」  
 主催 京田辺市観光ボランティアガイド協会  
 協賛 一般社団法人 京田辺市観光協会

第16回 講演会

「日本の歳時記③..  
秋、冬編」

日程:平成30年12月15日(土)  
 締め切り:12月14日(金)  
 午後5時まで。

さらに七百年の長寿を得たと伝わる人物に因み、お酒に菊の花びらを浮かべた菊酒を飲み息災長寿を祈り願いました。それが飛鳥時代頃に日本へと伝わり、宮中からやがて民間にも広がり、そこから様々な行事や慣わしがうまれたといわれています。

講師:中江 好喜 先生

(京都産業大学 特別上席客員研究員)  
 「平安京を語る会」会長

場所:京田辺市中央公民館

時間:午前10~12時(午前9時半~受付)

参加費:200円(資料代)

申し込み先:京田辺市駅ナカ案内所

Tel: 0774-68-2810

申し込み方法:電話にて住所、氏名  
 電話番号、参加人数をお知らせください。

9月22日(土)

「初秋の甘南備山から平安京を望み  
一休寺で一休み」

初秋の甘南備山(標高221m)を目指す歩行距離約10kmの一般向きのコースです。

JR松井山手駅を出発し、毎年4月13日に「十三参り」で賑わう虚空蔵堂を拝観します。

湧き水を源にした虚空蔵谷川の滝で涼を取りながら緩やかな登山道を登りついた所が甘南備山の三角点です。

三角点の直ぐ下にある白石は平安京建設の際、朱雀大路の目印になったといわれています。

頂上展望台で昼食、平安京や愛宕山、比叡山の絶景を眺め帰路は、珍しい樹木「ラクウショウ」や珍しい野草「ツリフネソウ」の咲く群生地を歩き、「とんちの一休さん」のお寺として親しまれている一休寺で一休み。

最後に今昔物語の「ミミズ伝説」で語られている甘南備寺を訪れます。

最初から最終地点JR京田辺まで、自然、爽やかな景色、歴史等満載で、とにかく色々楽しめるコースです。是非ご参加をお待ちしています。

コース



JR松井山手ーそよ風幼稚園ー虚空蔵堂ー虚空蔵谷川の滝ー野外活動センターー甘南備山三角点・白石ー神南備神社ー展望台(昼食・休憩)ー吉やんの滝ーツリフネ草群生地ー一休寺ー甘南備寺ーJR京田辺

集合:午前9時30分  
 解散:午後3時頃



行事のお問い合わせは

「京田辺市駅ナカ案内所」(9:00~17:00)へ。

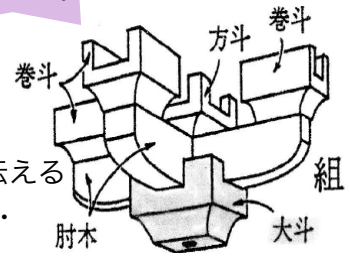
☎ 0774-68-2810

軒下の話 その①

軒下の組物 (斗拱・その1)

部材は、建築物の梁や桁 (けた) にかかってくる上部の荷重を集中して柱に伝える役目をもつ総称で、原則として斗 (ます)、拱 (肘木ともいう)、垂木 (榑・たるき) の三部材で構成される部材を「組物」と云われている。

元々これらの部材は建築強度を持たせる役目が主であったが、建築技術が進むと同時に大工の意匠を担う美術的価値を表現した豪華な組物に変化してきた。そのほか斗拱以外に軒下を飾る部材として、束、軒下支輪、格子、木鼻、蟄股、懸魚等がある。



**斗の色々** 斗は使用される役目、部署により以下の種類がある。

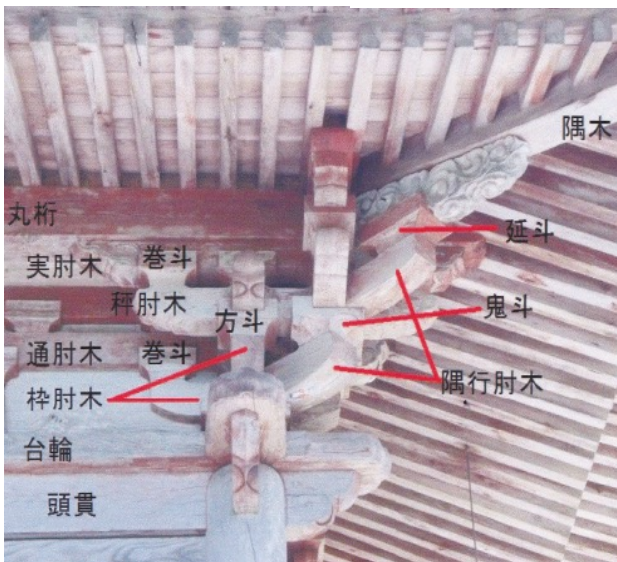
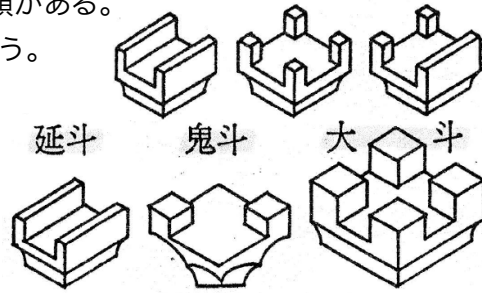
大斗：柱の真上にあり、すべての荷重を支える斗を云う。

特に大斗と肘木の組物を大斗肘木と云う。

方斗：肘木の上、中心にある斗を云う。

卷斗：肘木の上、方斗以外の斗を云う。

三方斗：三方向に出る肘木を支える斗を云う。



肘木の色々

梓肘木：(わくひじき)：大斗の上、十字に組んだ肘木を云う。

秤肘木：(はかりひじき) 方斗の上、手先の上に卷斗が乗る肘木を云う。

実肘木：(さねひじき) 卷斗の上、桁を直接受ける肘木をいう。

通肘木：(とうしひじき) 組物相互間をつなぐ長い肘木を云う。

挿肘木：(さしひじき) 直接柱に差し込んだ肘木を云う。

次号へ続く!

\*肘木の形から見た種類

舟肘木：船の形をしている。両端の断面が直角に切られているのが和様、丸みを持たせているのが禅宗様。

雲肘木：部材の両端化に雲形に切られている。

花肘木：大仏様の肘木の両側を図案化、装飾したもの。



舟肘木 (一休寺)



花肘木 (法隆寺)



雲肘木 (浄土寺)